



直近のイベント 隠岐の4島を回って隠岐の良さを再発見しましょう！

食の感謝祭	11月6日(日)	海士町(隠岐神社)
中学校演劇発表会	11月19日(土)	ノアホール
「世界ふしぎ発見！」ジオパークシンポジウム	11月19日(土)	海士町(島民ホール)
小学校学習発表会	11月20日(日)	西ノ島小・中学校
蛇巻(ジャーマキ)	11月28日(月)	知夫村(各地区)

豪華客船と台風！

台風18号により、豪華客船の入港が大きく影響されました。10月5日(水)に「飛鳥II」が入港する予定でしたが、その日はちょうど隠岐に台風が接近する予報でしたので、安全確保のため抜港になりました。10月6日(木)には「にっぽん丸」が金沢から隠岐に向かう途中、若狭湾内で避難していたため、5時間遅れで入港しました。約220名のお客さんが楽しみにしていた国賀巡り遊覧船は高波のため中止になりましたが、台風一過の青空の下で赤尾展望所から日本海を眺め、摩天崖で牛馬の中を歩き、陸の観光は大満足だったようです。路線バスで別府港まで足を延ばし、資料館巡りをした方もいました。景色や史跡だけでなく、地元の方のおもてなしや、浦郷港でのイワシみりん干しとイカ焼きのふるまい、岩ガキの販売は好評でした。来年はまた「にっぽん丸」と「飛鳥II」が入港する予定です。お楽しみにしてください。

11月は様々な国から観光客の団体がやってきます！

◆11月2日(水)～3日(木)

隠岐で初めての外国人サイクリングツアーが行われます。企画者は鳥取県在住のリチャードさん(イギリス出身)で、プロサイクリストの丹羽隆志さんと参加者10名(イギリス、ロシア等)が西ノ島と島後で絶景サイクリングを体験します。このツアーは日本海側を通り、鳥取市からスタートし、三徳山や三朝温泉の後、隠岐へ渡り、美保関や出雲大社にも行きます。



◆11月24日(木)～26日(土)

アフリカ途上国のアンゴラ、エチオピア、ザンビア等から計16名のJICA研修生が隠岐で研修をおこないます。全員がアフリカで理数科教育に関わっている先生や教育委員会の方です。西ノ島のテーマは「ジオパーク」で、ガイドと一緒に地質を学び、教室の外にある生態系(花、鳥、魚など)や風景(夕日、星空)を通し、ジオパーク活用の方法を学びます。島内各地を見学しますので、見かけたら「こんにちは！」とお声かけをお願いします。

発見！

西ノ島の自然の魅力 Vol. 10 『カモメもいろいろ！』

冬が近づくにつれ、カモメの姿を目にする機会が増えてきます。カモメの仲間は主に日本より北の地域で繁殖し、秋に南下して日本で越冬するものが多いためです。カモメはどれも姿がそっくりですが、実は西ノ島では3種類がよく見られます。見分ける一番のポイントは飛んでいる時の尾羽。外側に黒い帯があれば「ウミネコ」です。他の2種は「セグロカモメ」と「オオセグロカモメ」で、どちらもウミネコより一回り大きく尾羽は真っ白です。この2種の違いは難しいので、まずはウミネコとそれ以外を見分けてみましょう。また、全身が茶色のまだら模様のカモメもよく見ますが、これはその年か前の年に生まれた若鳥です。カモメは近くで観察しやすい鳥なので、ぜひ見分けに挑戦してみてください。

(by 江崎)



▲ ウミネコ



▲ セグロカモメ

地域おこし協力隊員の紹介

地域おこし協力隊とは、都市住民を地域社会の新たな担い手として受け入れ、特産品の開発や観光振興をメインにいろいろな分野で地域協力活動を行います。

今回、新しく西ノ島町にて活動する協力隊員を紹介します。



かねたに しょうへい
金谷 章平

地域おこし協力隊（工芸職人）

みなさん初めまして地域おこし協力隊として西ノ島に越してきました、金谷章平と申します。

私は10月から波止にある焼火窯で勤務させてもらっています。焼火窯では、西ノ島の資源を用いて陶芸、染物を行っており、窯元である加藤唐山先生と加藤洋子先生の下で勉強させていただいています。焼火窯での活動を通して西ノ島のPRや観光につなげていけるように日々精進していきます。こんなに美しい島で生活していることを幸運に感じています。来たばかりでわからないことも多いですが、任期末もこの島で生活していける術を学んでいこうと思っています。

まだまだ未熟者ですがどうぞよろしくお願い致します。

35万尾のマダイ稚魚を放流

隠岐島前地域水産振興部会（事務局：西ノ島町地域振興課）では、今年もマダイの放流を行いました。マダイ放流は水産資源を守り育てるために毎年実施しているもので、約10cmに育てたマダイ35万尾を島前の近海に放流することができました。

また、10月6日（木）には、西ノ島小学校5年生のみなさんと一緒にマダイの体験放流を行いました。（公社）島根県水産振興協会による説明で、マダイや栽培漁業について学習したのち、約5,000尾のマダイ放流を体験して頂きました。

子供たちは、放流されたマダイに「元気に育ってね」と声をかけながら、泳いでいく様子を見守っていました。



● お願い ●

放流したマダイは、しばらくの間人間の手で餌付けされておりますので、人間に対する警戒心が薄く、簡単に釣り上げられてしまいます。

マダイは島前地域共通の大切な資源です。15cm以下のマダイを釣り上げた際は、大きく育つよう放してあげて下さい。みなさんのご協力をよろしくお願いします。

